

福島的女性たちと 交流合宿を開催

この目で確認した

福島の今！ 報告

11月3〜4日女性委員会は「交流合宿in郡山・いわき」で福島現地を訪れた。福島連帯ユニオン委員長をはじめ佐藤昌子さん、佐藤隆さん他の皆さんには大変お世話になった。

3日昼過ぎ郡山駅に集合した参加者12名は出迎いの車に分乗して2011年6月に起ち上げされた「3a!郡山」を訪問した。

ここでは気楽に参加、話ができるような「お茶のみ会」の開催、食品の放射線測定、保養プログラムの紹介、2013年9月には自転車隊による放射線測定の実施も行った。

役所が設置している測定値は低く出ているが、今でもホットスポットがある。公園の木製ベンチなどきれいにペンキは塗ったが放射線量は高い。食品の放射線量は最近少なくなつた。郡山でも「安全だと思いたい」親も増え、学校などでは思ったことを話せないし、「保養」という言葉さえ抵抗を持つ人もいるという。人々のやりきれない思いがそうさせるのだ



「3a!郡山」のスタッフから活動報告や状況を聞く

ろつかと考えさせられた。

室内の放射線量は0.07μシーベルトだが、窓際に測定機をもつていくと0.2と上がった。

次いで多田野ポケットファームへ。ここは十数軒の農家が集まり低農薬のお米や野菜を直接販売・発送をしている。3・11以降は客足も減りJAを通さない自主流通なので補償金の対象にもならず大変だ。今は農産物の放射線検査結果も備えて販売に頑張っている。

私たち参加者のために、けんちん汁と名物の小ジャガイモの味噌和え（素揚げではなく長く炒めるそうだ）を用意して待っていてくれた。私たちも珍しい黄色のカリフラワーやら色々購入した。その間にも客足は絶えなかつた。放射線量は1mの高さで0.19、草むらに近付けると0.3に。

1日目のメインは教組会館での交流会だ。ここには富岡町、大熊町からの避難者、除染ゴミ焼却問題で闘っている方、除染作業者、子ども疎開裁判の会、福島告訴団の方など10人が参加し、総勢26名にも交流会となった。

(以下次号)

11.9の脱原発をめざす女たちの会

11月で発足2周年を迎えた脱原発をめざす女たちの会が星陵会館で9日集会を開催した。テーマは「わたしたちの脱原発3原則 - つくらない! 売らない! 動かさない!」だ。当日は再稼働が狙われている伊方八幡浜原発、川内原発、柏崎刈羽原発現地からの報告と福島原発告訴団の武藤類子さんの報告もあり、300人を超える参加者で改めて脱原発を確認した。



会場は300名を超える参加者で一杯になった

「フジビ闘争」勝利をめざす、
支援共闘会議(仮)に参加を!

フジビ闘争を闘う組合員たちは、労働者として当然の生活と権利を要求し、また、なによりも中小企業労働者として誇りたかく、地域の資産家田中一族の偽装倒産解雇と組合つぶし攻撃に立ち向かい粘り強く闘ってきました。

この度、富士美術印刷(フジビ)とその創業家田中一族との1年を超える闘い「フジビ闘争」を中心になって支えてきた「フジビ闘争地域対策会議」をさらに発展させ、より幅広くこの闘争を支えようとの呼びかけにより「フジビ闘争支援共闘会議(仮)」の結成が決まりました。11月8日に第1回支援共闘会議(仮)準備会が開催され、14春闘前段に結成大会をめざし準備を進めています。第2回目の準備会は、12月6日18時半から日暮里ひろば館にて行われます。ぜひとも、多くの労組からの参加をお願いします。

また、11月18日から29日にかけて、13秋季闘争第二弾としてフジビ社前座り込み行動を決定します。社休日の土・日と東部総行動の27日を除く毎朝8時から13時まで、フジビに雇用責任と争議解決を迫ります。

フジビ社前座り込みでは、フジビ近隣住民や協力会社・仕入れ業者の皆さまからの激励が相次ぎ、フジビ闘争は地域の声に支えられていることを実感します。

改めてこの間のご支援に感謝し、引き続きフジビ闘争を支えていただきたくお願いいたします。

(フジビグループ分會書記長・中原純子)

アジア（韓国・香港・インド・日本）の女性たちと闘いを共有

10月26〜27日アジア女性労働者交流プログラムが開催されました。このプログラムは30年にわたってアジアと日本の女性労働者をつなぐ交流活動を進めてきたCAWネット・ジャパンが呼びかけ、9つの団体で実行委員会を立ち上げ、女性委員会もその一旦を担いました。

共通テーマである女性非正規雇用についての実態やその組織化の実践及び若い女性の雇用問題と運動について各国から報告がありました。置かれている女性労働者の状態は、雇用不安・低賃金・人権侵害を受けやすい非正規雇用が急上昇していること。そして、各国で闘いに挑んでいる女性たちの報告は、全く同じ様な課題であることがはつきりしたことです。最低賃金の引き上げや短期契約による雇用不安に対して、当事者たちが声を上げ始め、組織化にも成功しています。国による違いが浮き彫りになるのではなく、取り組みの課題が共通になっていることでした。

韓国からはKWWA（韓国女性労働者会）とKWITU（韓国女性労働者組合）の報告がありました。

学校非正規職労働者の93%が女性であり、新学期になるたびに雇用不安に苦しんできた、非正規労働者を組織化し、2012年には直接雇用による雇用の安定を獲得し、現在賃金交渉を進めている。又多くは公共機関で働く清掃員労働者を組織し、1年契約を更新させたり・賃金引き上げの闘争を続け

JAL不当解雇撤回 高裁勝利！
JAL不当解雇撤回
10.25大集会

1790名の結集で高裁判決勝利・早期解決にむけ、闘いの強化を確認

台風来襲が懸念された25日、午後のJAL本社前要請から、国交省、裁判所、厚労省前での行動に続く、文京シビックホールでの10・25集会は満員だった。



東京労組ミュージズ分会・柳瀬さんの司会で盛りだくさんのプログラムが進行した。

開会は全国港湾の糸谷委員長。上条弁護団長は高裁で証人尋問を勝ち取り、解雇時点で新要員人員数以下であったが解雇が強行されたこと、まさに組合への介入の不当解雇と立証したがJAL側は何ら反証出来なかったと裁判経過を報告。各地からの挨拶で大阪支援共闘副代表として大阪全労協・山下議長が大阪から30名で参加、解雇争議はまず支援することだと決意表明。前日弁連会長宇都宮健児さんは司法の役割は人権を守ることだ、最後まで応援すると。海外ゲストOCCCパイロット15人は舞台上に勢ぞろいし、チャックマン委員長が激励の挨拶を行った。励ます会からも挨拶があった。

続く150本を超えるのぼり旗の舞台上の勢ぞろいは圧巻だった。「あの空へ帰ろう」の合唱に次いで議員挨拶・メッセージ、国労石上委員長からの力強いメッセージの紹介、乗員組合・CCUの各委員長の決意表明、行動提起と続く。

原告団山口団長、内田団長からJAL闘争は安倍政権の雇用破壊攻撃に対する闘いでもあり、解雇撤回に向け法廷の内外で闘うと決意表明がなされた。

集会は宣言を確認し、MIC日比野委員長の閉会で終了した。勝利判決に向け頑張ろう！

私のお気に入り！

伊豆半島に行ったとき、ジャングルのようになっていたアロエの群生をみかけたが、私の家で生えているアロエは鉢3つ。「アロエを生けておきな」と亡き母が20年程前に生けておいてくれたもの。このアロエは半年以上ベランダに放りっぱなしにしておいても夏であろうが、冬であろうがその生命力は保っている。時に気にかけて、水遣りをするるとたちまちその青々とした葉が蘇ってくるのだ。日照時間が長い場所であれば葉は肉厚になる。



このアロエをみると何の世話もされず、気にもかけてもくれない存在の逞しさを思うのである。アロエは蚊に刺されたとき、かゆみ止めに抜群の威力をもたらず。蚊にさされた部分にゼリー状をこすりつけるだけで、掻きこわしの腫れも引いていく。かゆみ止めの薬より効力ありで、今も孫らに使用している。
こんどう みえこ

ています。

めざましい組織化の実践がある韓国女性労働組合は1999年に設立当初400人規模でスタート。現在は10支部約6000人の女性労働者を組織しています。

香港からの報告は、労働法の保護から除外された臨時雇用問題。個人事業主契約か、何重にもなっている請負い契約になっていきます。小売部門で中年女性が多いスーパーの販売員・若い女性労働者が多いビールの販売員の組織化を始めていました。



インドは女性への抑圧反対フォーラムに所属するスジャータさんから、独立労組が女性たちの組織化を働き始めていることなど報告がありました。

韓国・香港での

参加者からの感想

取り組みは、はじめに調査活動を半年位かけていたことでした。これはとても示唆に富み、学ぶべき事だと深く感銘を受けました。
プログラムの参加者からは、韓国へのスタディツアーを組もうよ！コールセンターの女性労働者の実態調査をしようよ！など女性労働者の組織化への意欲が醸成された交流会プログラムでした。
(近藤)

「初めて参加させていただきました。私は労働組合で活動することに甘えていたように思います。活動していれば自分自身の雇用は守られ、職場は大丈夫！という想いが心の中にありました。今回、アジアの女性たちと共通の問題を話し合い、意見交換ができたことに感謝いたします。

また機会があったらぜひ参加したいと思えます！ありがとうございました！」

全国一般東京労組 伊藤紀子